



鹿児島県 児童クラブ連絡協議会

連絡先

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久2105-1

TEL/FAX 0995-45-7800

<http://m-jidouclub.com/krijidouren-index.htm>



携帯サイトです。ブック
マークに登録を！

ニュース

No. 21

2010年10月30日

2011年度鹿児島県への 予算要望の賛同署名にご協力を！

学童保育の運営主体は、公設公営の割合が減少し、法人などが運営する学童保育が増えています。行政からの要請により、保護者会や連絡協議会がNPO法人化するところが増えています。また、学童保育の必要性が高いのに整備が遅れている実態から、民間企業などが運営する多様な内容の学童保育も生まれてきています。

公的な責任による学童保育の整備がすすまなければ、民間企業など多様な運営主体と内容をもった（しかも高額な保育料の「隙間」を埋めるような）学童保育が増えていく可能性があります。公的な責任のもとで、必要としている家庭が安心して利用でき、どの学童保育でも最低限確保しなければならない内容や要件を備えた施策・制度として確立していくことの必要です。

県連絡会では、12月県議会前に県内の児童クラブの署名を添えて、鹿児島県知事に要望書を提出します。要望事項に賛同いただき、署名にご協力をお願いします。

◆要望書は、ニュースと一緒に同封しました。

「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の量的拡大・質的拡充を図るために 2011(平成23)年度鹿児島県予算等についての要望書」

●賛同していただける児童クラブ(学童保育所)は、11月18日までに下記携帯メール、またはFAXにて回答をお願いします。

賛同署名の送信先：FAX0995-45-7800

■2011年度予算拡充に賛同します。

- ・児童クラブ(学童保育所)名
(施設名： 代表者名)
※保護者会がある場合は、保護者会代表者名 ()

■県連絡会への加盟の有無

- ・加盟している ・加盟していない ・加盟したい

■ブロック名をお書き下さい。

- ・鹿児島ブロック ・肝属ブロック ・川薩ブロック
- ・始良伊佐ブロック ・曾於ブロック
- ・南薩摩ブロック ・熊毛・大島ブロック



携帯電話でQRコードを
読み取りの上、送信して
ください。

「子ども・子育て新システム」制度の拡充を求める請願署名運動にご協力を！

新システムとは…「子ども・子育て新システム」といい、幼稚園や保育園の一体化(幼保一元化)を含め、特に就学前の子ども・子育て関連の制度・財源・給付について一元化するとして、政府が構想している制度です。

2011年に法律を変え、2013年度から新制度を施行するというスケジュールが示されています。制度の内容や設計は不透明で、保護者や保育関係者に大きな不安が広がっています。

鹿児島県児童クラブ連絡協議会としても、全国保育団体連絡会と連携しながら、この「子ども・子育て新システム」が学童保育にとってより制度拡充につながるよう、署名運動を進めてきています。

保護者のみなさんへ働きかけていただき、署名運動にご協力をお願いします。

※署名用紙とチラシを同封しました。



2010年度 県連絡会

～子どもの成長・発達とは 昔遊び講座～

- 日時 2010年11月21日(日) 10:00～16:00
- 会場 阿久根市「西目地区構造改善センター」
(阿久根市西目2142-2 TEL0996-72-0709)

<講座>

- ・子ども理解講座 10:00～12:30
○講師：米衛 政光さん
○演題：「気になる子ども」の
発達的理解と指し導き
- ・昔遊び講座 13:30～16:00
○講師：山本 清洋さん
○演題：「遊びの支援～伝承遊びと創作遊び」
講座と遊びの実践ワークショップ

指導員研修会の開催

2010年度鹿屋市学童保育連絡会・公開講座

- 日時 2010年12月12日(日) 10:00～12:00
- 会場 鹿屋東地区学習センター集会室

<テーマ>

- 「障がい児がそだつ放課後
～学童保育は発達保障と和みの場所～」
- 講師：白石 正久さん
(龍谷大学社会学部
臨床福祉学科教授)
- ・参加費 無料



全体講義

「愛されて育てられること～子ども・親・指導員のつながり方～」
講師：春日井敏之（立命館大学教授）

この講義で、“やんちゃをする子どもは、心に寂しさを抱えていて、自分を守ってくれる人を感じる体験が乏しい子で、自分を守るための鎧を自ら作っている”ということを知り、宮内児童クラブの夏休みを思い出し、とても心に残った。

以下の3つのことを大切にすることが重要。

①「いのちよりも大切なものはない」ことの再確認
—私は夏休み中、屋根に上ったり、危険なところに座ったりしていた子にこのことを伝えることができただろうか。ただ「危ないでしょ！ケガしたらどうするの！」と叱るだけでは伝わらないことだったと思う。“あなたがケガしたら泣いて悲しむ人（私）がいるんだよ”ということを伝えるべきだった。

②「見返りを求めない愛」を注ぐこと
—「先生、～ちょうだい！」「～貸して！」という子に対し、私の言うことを聞いてくれないと、心の中で“私はあなたの言うことに応えたのに”という気持ちになっていた。子どもの欲求・要求に私は出来るだけ応え続けていくよという姿勢が、その子どもとの信頼感を築いていくのだと感じた。子どもが応えてくれるようになるのはそれからだ。

③「どんな時もあなたの味方」というメッセージを伝えること
—連日言うことを聞いてくれない子に対し、歯がゆさや疲れを感じ、その子のことを嫌いにはなっていないのだが、その子の前で、時々、嫌いになってしまったような態度・顔つきになってしまっていたと思う。感情的に怒ってしまったり、子どもを叱った後のフォローも足りなかったと思う。怒るだけでは、子どもにその場しのぎの行動を取らせるだけであり、“この先生は怖い・面倒くさい”と思わせるだけであると感じた。とても反省した。強く怒った後は、許し、私はあなたの味方なんだということ（守る）を伝えることが大事なのだということを知った。

指導員が子に与える影響は、親子関係が子に与える影響には及ばないと思うが、今後はやんちゃな子に対し、その行動・言動を責めるのではなく、その子がそのような行動を取るのにはなぜかということを考え、上記のことを活かし、根本的な解決が出来たらと思った。

根本的な解決とは、親に協力してもらおうということではなく、その子を子ども扱いせず、良いところを見つけほめて認め、自分自身に出来ることを精一杯し、信頼関係を築く（居場所を作る）ということである。

自分を認め、受容してくれる人がいる、自分を見ていてくれる人がいるということは子どもの心の支えになると思う。私も、子どもにとってそんな存在でいられるように努力していきたい。



基礎講座

講座2 学童保育の一日の生活の組み立てと指導員の仕事
講師：永松 範子（全国学童保育連・指導員）

宮内児童クラブの学童保育の一日の生活の組み立ては、講義で配布された、永松先生の児童クラブの一日の組み立てとあまり相違なかった。

夏休みの一日の組み立ては、6月下旬には指導員ミーティングをし、夏休みの一日の組み立ての確認（食事作りと行事を週に1回程度入れ込む）をする。あまり行事を入れ込み過ぎるのは避け、子どもも指導員も無理のない計画を立てること。

児童クラブで子どもが時間を過ごすにあたって、“子どもたちに課題を与えないこと・子どもたちが自発的にすることをさせる”ことが大切であるとのことだった。

子どもたちにとっての放課後とは学校の続きではなく、あくまで帰宅した状態であり、遊びを中心とした、自発的、主体的に活動できる時間（学校で過ごす時間との違い）でなくてはならない。

しかし、児童クラブで過ごす放課後と、自宅に帰宅し過ごす放課後を近づけることはあまりにも困難であるように感じる。自宅に帰宅する子は、遊びたい子と好きなところで好きなだけ遊び、したい時間に宿題をし、おやつを食べる。疲れていたら睡眠をとることもできる。児童クラブで放課後を過ごす子は、いつものメンバー（学年も様々）と集団で過ごす時間で、着替える、手を洗う、おやつを食べる…など、放課後の過ごし方があらかじめ大きく決まっている。その時間の中で子どもの自発性・主体性を活かしていくことになる。（※無理をして活かす必要はない。わがままを聞くのとは違う。）

子どもからすると少し窮屈で、我慢もしなければいけない時間であるように感じる。

しかし、長い目で見ると、その子は『規則正しい時間を送れる子』『集団の中で時間を過ごすことのできる子』『友達（知り合い）の多い子』になる可能性が高くなる。これは子どもが成長し進学していくなかで最大限に活かされることであり、不登校（原因で多いものは大抵対人トラブル・昼夜逆転の生活）や就職難（就職しても対人関係や労働内容についていけず辞める人も多い）が問題になっている今、これが児童クラブの最大のメリットではないかと私は思う。

私自身、幼稚園が年長からで、幼い頃はほとんど親と過ごす時間が長かったため、小学校では集団に中々馴染むことが出来ず苦労した思い出があるので、児童クラブはとても魅力的に感じる。だからといって、保護者が一番望んでいるであろう“子どもの安全”がおろそかになってはいけない。これが指導員のなによりも一番の仕事であると思う。

最後に、学童保育をする上で大事なことは、指導員のチームワークである。子どものことや一日のことを指導員全員で話し、情報を共有することで、子どもにも安心感を与えることができる。そして、できるだけ子どもの遊びに混ざることで、子どもの交友関係や性格が分かるようになるとのことだった。

この講義で学んだこと、再確認したことを今後活かし、“子どもの行動の裏にある思い”に気づき、理解できるような指導員になれるよう励みたい。